広報津山8月号
2022（令和4年）
No.813
編集・発行
津山市企画財政部秘書広報室（市役所3階）
〒708-8501 岡山県津山市山北520
☎0868-32-2029
FAX 0868-32-2152
✉ kouhou@city.tsuyama.lg.jp
広報津山は、環境保護のため再生紙と植物性インキを使用しています。読み終えた後はリサイクル（雑紙）にご協力ください
広報津山電子版
津山市公式フェイスブック
津山市公式LINE
津山市公式インスタグラム

津山の人・物・技術など、明日誰かに自慢したくなる津山のいいところを紹介します

つやまじまん 20

えええとこいっぱい 津山自慢

管理を担当する知和老人クラブの皆さん　赤野さん（後列左から2番）、山本さん（前列左から2番）、國米さん（前列左から1番）

表彰を受けた駅の管理活動を担当
知和老人クラブ（加茂町知和）

開業時の姿を残す駅舎の管理活動が評価され、令和３年、産業遺産学会(東京)の産業遺産保存功労者表彰を受けた知和自治団。駅舎の管理を直接担当する、知和老人クラブ役員の赤野美代子さん・山本文夫さん・國米彰さんに、駅舎や活動への思いを聞きました。

建設当時の姿を残す駅舎

昭和30年代頃まで、貨物列車の引き込み線や運送会社の倉庫があり、木材を運び出していました。ホームには、信号機を操作するレバーがあった小屋の跡が残っています。建物の大部分が建設当時のままで、取り替えられていた窓枠もサッシから木に戻しました。昔のまま残る窓のガラスには、特有のゆがみがあるので分かります。

さまざまなジャンルの聖地

桜が咲く季節や、誰も踏んでいない真っ白な雪道から続く冬の駅舎は、人気の撮影スポットです。

秘境駅として紹介され、漫画にも取り上げられるなど、年代も趣味もさまざまな人が訪れます。平成19年から始めた、誰でも見たり書いたりできる「知和ノート」には書き込みが絶えません。

活動の原動力は思いやりの心

平成17年頃から、月に1回、5～10人程度が集まり、清掃や周囲の草刈りなどをしています。

大切なのはここに住み続けたいと思う気持ちと一人ひとりができることをすること。原動力は、お互いを思いやる、助け合いの心です。駅舎がきれいになれば、みんなが気持ちが良いのは自然なことです。「管理する」という大げさな活動でなく、駅舎でおしゃべりする楽しい時間だと思っています。

線路沿いに彼岸花を植える活動は、沿線地域を盛り上げようと始めて、10年以上になります。毎年11月末頃、彼岸花が群生する河原から株を移植し、少しずつ増やしています。9月中旬頃から、真っ赤な花が線路沿いを染めるので、車窓から楽しんで欲しいです。

若い世代につないでいきたい

駅の利用者が減り、建物の傷みも増え、歴史や思い出が詰まった地域の良いものを、若い世代にどう引き継いでいくかが課題です。

駅舎に人が集まる新しい活用の仕方を一緒に考えるなど、若い人につないでいきたいです。

因美線知和駅本屋（加茂町小渕）

昭和６年（1931）に設置。当時の鉄道省が定めた地方の小さな駅舎の典型的な造りを残しているとして、令和３年に産業遺産学会の推薦産業遺産の認定を受けた。

※写真撮影時のみマスクを外しました

つぶやき編集室

人生初の人間ドックを受診しました。心配だったバリウム検査も含め、想像よりスムーズに終了。食事や運動のアドバイスもあり、生活を見直すきっかけになりました。国保に加入する20歳以上の人は、健診や人間ドックが「つやま健康ポイント」の対象です。この機会に健康チェックをしてみませんか？（☆）

今回の津山自慢の取材は、産業遺産学会理事長の小西伸彦さんと訪問。専門家 小西さんの駅舎についての贅沢な解説に加え、「小渕地区にあるのに、なぜ知和駅？」「スローライフ列車が知和駅に長時間停車できない理由は？」など皆さんから続々と飛び出す驚きエピソード。全部紹介したかったんですが…。（ン）

3ページ、4ページの記事を作っていると、デジタル技術の言葉が多いことに気付きました。「スマートシティ」「AIチャットボット」「ICカード決済」「デジタルデバイド」「母子健康手帳アプリ」「ICT」。少し前まで見慣れなかった内容が次々に登場。デジタル化の波と時代の変化の速さを実感しました。（ニ）